

2年前、東京で聞いたセミナーの話をご紹介します。

たしか、文部省と農水省が共催した「都市と農村交流の総合学習への応用」とかいうなんか難しそうなお題がついていたように記憶していますが、内容は面白く、興味深いものでした。東京都武蔵野市の小・中学校で行われている「セカンドスクール」という授業の話。この武蔵野市では小学5年生と中学2年生の時に数日間、長野県飯山市の農家にホームステイをする。ホテルや旅館、民宿などの宿泊施設ではなく、市内の農家に数名ずつ割り振られて、そこで寝泊まりする。そこでは、観光地を回ったり、名所を見たりするのではなく、実際に農家の仕事を手伝ったり、家の手伝いをしたりして生活し、時間を過ごす。自分たちの食べている野菜はこうやってできるのか！ということや、自然の中で生活するということや、肌で感じる都会の子供たちにとっては、貴重な体験となる。参加前と参加後では、子供たちは大きく変わると学校の先生は話していた。親たちも「食べ物を残さなくなってきたとか」会話が以前よりも増えて来た。」ということに喜んでいてと言っていた。人間関係の希薄化が進む都会が失ったものの存在を子供たちはきっとこのホームステイで気付くのだろう。帰省した後も飯山のおじいちゃん、おばあちゃんへ手紙を書いたり、連絡をとりまた遊びに（今度は家族皆で）行ったりというケースも少なくないという。

私をはじめ、田舎を持たない都会生まれの人たちには、こういう出会いは本当に貴重だ。でも、この話の中で私がもっと驚いたのは、この「セカンドスクール」で変わったのは参加した子供たちだけではないということ。では何が変わったの？と例えば、地元飯山市の子供たちとそして地域自体が大きく変わったということだ。武蔵野市の子供たちとの交流を通じて子供たちをはじめ地域の人たちは飯山の自然、歴史、文化、産業など、地域の良さや魅力を再発見、再認識するようになったという。

この「勿体無いよ!!うらほろ」も今号で7回目。武蔵野市の子供たちが飯山市に与えたことの数分の一、いや何十分の一でも良いから、これを読んだ皆さんに浦幌の魅力を再発見をする機会を作っていたら、とてもうれしい。もちろん浦幌は浦幌住民のもの。町民の幸せや発展が最優先課題だということも十分承知しているつもりです。前号までで「移住者受け入れ」ということをお話してきて今号でも都会の人が農山漁村を求めているという話をした訳だけれども、浦幌は浦幌住民のためだけでなく、都会の人たちにもなくてはならない地域なのだ！という位置付けがこれからは大事だと思う。自

勿体無いよ!!うらほろ

第7話
浦幌は誰のもの!?

分たちのことだけで精一杯なのに他所の人のことまでかまってもらえない！なにをこの時期に！という方もいるかもしれない。でも、浦幌は都会の人たちのものでもあるということをよく考えてほしい。まだまだ未発展な社会資本整備。町民だけからの出費で到底賄える訳がない。補助金、助成金という形に変わった都会の人たちから出るお金の頼らざるを得ない。しかし、ここに来ての補助金等の削減問題。浦幌が浦幌町民だけのもの、そうだとしたら、都会の人も自分たちのお金が使われることに納得しない、でもそれが、自分たちのためでもある、つまり都会の人たちのものでもある浦幌だったら、どうだろうか？

例をひとつ。東京の首都高速道路の料金は今だ値上げを続けている。もう十分採算が取れたのだから、無料にしても良いほどであるが、そこでの利益が道東自動車道の赤字の穴埋めになっている。東京の人は納得しない。何で私たちの払っているお金が北海道の赤字の補填にまわらなければならないの？でも、この道路が食料基地十勝の食料の輸送にはなくてはならないものだということや東京の人に理解させたら、どうだろうか？少しは怒りもおさまるはずだ。余裕があるなら、自分たちの「道東自動車道」ということでいいのだけど、都会の人たちのためになくてはならない道東自動車道という位置付けが今の時代は大事だ。

8月の広報で八木町長も書かれていたけど長野県のある町では「ふるさとへの寄付」という形で都会から地方へのお金の流れを作り話題になった。道内でもニセコ町が強みの「観光」を武器に同じようなことを始めるそう。いずれにしても地方にお金がないのだから、どうやって都会からお金を持ってくるか。都会の人を理解させるか、それぞれの地域の強み弱みを把握して独自の戦略を考えることが重要だ。

大自然に囲まれ、都会の食を担っている町うらほろ。都会が失った本物（物、心）の豊かさを享受できる町うらほろ。「この町も守っていく上でまだまだ必要なものがたくさんある。社会基盤もまだまだ整備が必要。だから、この町のためにお金を出してください！」浦幌町民の幸せは結果、都会の人たちの幸せにつながる。決して他人事ではないという理由付け。都会の人のものでもある浦幌町になってみませんか？

おうみ まさたか
近江 正隆

1970年東京都生まれ。19歳で来道。土幌町で酪農業などを体験後、1991年浦幌町に移住。現在漁業に従事する傍ら、水産加工品などを販売するネットショップ「旬の逸品やさん」を運営している。





旧オベトン川（住吉橋から下流部）

旧オベトン川の管理は何処になるのでしょうか。森林公園から浦幌中学校の通学路の橋の上流・下流の方もそうですが、川の中にゴミ・草・木が生えて大雨で川の流れが悪く洪水や氾濫するのではないのでしょうか。衛生面、美観的にも悪いので伝染病の発生源にもなるのではないのでしょうか。

旧オベトン川の管理

北海道が管理しています

か。除去して清掃と共にきれいな川にしたいと思っています。

旧オベトン川は北海道が管理しています。所管する帯広土木現業所浦幌出張所にご要望のありました維持管理について連絡いたしました。北海道も厳しい財政状況下にあるため、要望のあった全てに対応することはできませんが、努力したいとの回答をいただきました。

（企画総務課企画振興係）

公共施設の統廃合

既成概念にとらわれない改革に取り組みます

浦幌には至る所に大きな建物がありますが、使用頻度はどうなのでしょう？各地域にある地域会館・廃校を再利用している体育館や会館は、各地域の公民館を使用することで十分に足りるのではないのでしょうか？夏しか使用できないプール・冬しか使用しないアイスアリーナは、本当に必要なのでしょうか？

同じような施設は統廃合してしかるべきではないでしょうか！
期間限定で一部の団体もしくは少人数の使用しかされていないような使用頻度の少ない施設は、廃止するべきなのではないのでしょうか？
建設されたときには必要であった施設でも、今現在において他の施設との重複によ

て必要性が少ない施設や、使用頻度の少ない施設は、町民・役場担当者・地域の人々との協議の上で、その過半数が不要と判断されるような施設は、廃止の方向へと向かってはいかがですか？
今使っていないものって、今後もし使わないのではないで

しょうか？
行政改革・財政改革といっても、特別職や一般職員の給与等の削減・町村合併への依存・受益者負担の増額ばかりが対象ではなく、町の施設全般への大鉈を振るうことが必要だと思っています。

我が家のアイドル



黒島 隆海くん（4才）
南町 パパ秋人 ママ恵
夢希ちゃん（2才）

いつも、おもちゃを取られて泣いている隆海と負けず嫌いな所があって、お兄ちゃんにやられて泣いている夢希です。
二人のマイブームは、隆海が電動バイク、夢希は買い物カートを押して家中走り回っています。これからも元気に育ってほしいです。（ちなみにもう少し仲よく遊んでほしいな……）